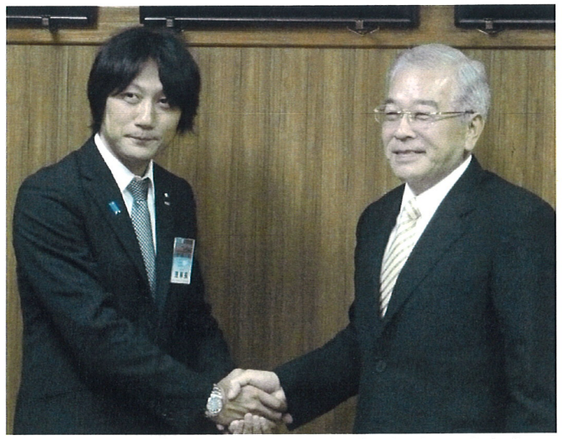
わがまちの、誇り

LOMの現場から

小千谷（おぢや）JC

ゼロ地点からの再生。5年という歳月をかけ、まちづくりのための人づくりに懸ける想い

信濃川の清らかな水の流れと、秋には黄金色にまちを染める田んぼに守られるように、穏やかなまちなみが続く小千谷市。2004年の中越大震災の際には、多くの家々が倒壊し、まちなみが一変、戦場と化したこのまちで、市民や行政とともにまちづくりに励んできた小千谷JCの村田 正理事長と、卒業後も後進を支え続けている小千谷JCシニアクラブ会長の岡元氏に、本物のまちづくりについて語り合っていただきました。



写真・右 小千谷JCシニアクラブ会長 岡元 学（おかもと まなぶ）

1949年生まれ／1977年 小千谷JC入会／1988年 理事長／小千谷JCシニアクラブ会長、有限会社米又商店 代表取締役

写真・左 第52代小千谷JC理事長 村田 正（むらた ただし）

1970年生まれ／1994年 小千谷JC入会／2005年 広域交流委員会 委員長／2007年 ドリームビジョン委員会 委員長／2008年 副理事長／有限会社村田農機商会 専務取締役

勝ち負けよりも子どもたちに教えたいこと

村田　シニアクラブの方々には、何かとお世話になり、いつも感謝しております。

岡元　口は出さずに金は出したいんだけどなかなかね（笑）。

村田　いえ、十分していただいています（笑）。先輩方の時代の小千谷JCはどのようなことに取り組まれていたのでしょうか。

岡元　私の前後4代の理事長は、どちらかというと壊し屋だったんですよ。それまで続いていた様々な事業をどんどんやめて、ゼロから組織を立て直そうとしたんですね。過激すぎたのか周りの反発も尋常じゃなかったです。

村田　「歴史は繰り返す」ですね。私が描くビジョンにも継続して行なわれてきた事業の見直しがあり、その一つが『おぢやまつり』へのJCとしての参加の取りやめでした。メンバーはそれぞれの地域において、リーダーとしてこの祭に参加しているわけで、我々がJCとして集まらなくとも祭を大いに盛り上げられると感じたからです。また、この取り組みをきっかけに各地域がさらなる発展へと繋がって欲しいと思ったんです。もちろん反発もありましたけどね。

岡元　私たちの時も同じで、多くの事業に参加することがよいまちづくりに繋がるわけではないですから、精査して見極めて、始めるなりやめるなりすればよいと思いますよ。

村田　北海道の深川JCと共同で行なっている『小千谷・深川少年少女探検隊』などは、小千谷JCが誇る交流事業でもありますし、後輩たちにも続けていってもらいたいですね。

岡元　私が理事長をしている時に、地形や人口などがよく似ているということで深川JCの方からお声掛けをいただいて、今年で22回目になりますね。

村田　以前はホームステイする形をとっていたのですが、昨年から子どもたちだけで共同生活をするスタイルに変更しました。しかも、前段階で『おぢや自慢探検隊』と題した勉強会を開きしっかりと故郷について勉強した上で、当日にお互いのまち自慢をしてもらっています。もちろん気球や闘牛、越後上布の手織りなど体験メニューも豊富で、子どもたちもはしゃいでいましたね。

岡元　私たちの頃は、物産市なども開催していました。大人同士も仲良くなって、個人的な交流をよくしたものです。『わんぱく相撲』も盛んで、全国大会にも行きましたね。

村田　近年は全国大会にこそ行けていませんが、今年も176名の参加者が集まりました。新潟ブロックの中でもズバ抜けて多い数です。全国大会出場を目標に稽古をすれば、行けなくはないと思いますが、我々の目的は勝ち負けよりも、礼節と思いやりを学んでもらうこと。とある学校の先生から、「『わんぱく相撲』に参加した子どもたちが目標を持つようになったり、挨拶ができるようになったよ。JCさんはやっていることが大きいね」とお褒めの言葉をいただいた時は、本当に嬉しかったですね。

メンバー70名、それぞれの想いを襷にのせて

村田　2004年の中越大震災の際は、小千谷も多大なる被害を受けましたが、当時の理事長がご自身の家が全壊しているにもかかわらず、「俺が被災者意識でいれば、このまちはどうなるんだ」とすぐさまボランティアセンターを立ち上げ、小千谷のために尽力されました。私たちもその姿に後押しされて、必死に戦場のようになったまちを駆け回りました。

岡元　あの時の現役メンバーは素晴らしいリーダーシップを発揮していましたね。その当時の経験は今も活かされていますか？

1・2. 176名もの子どもたちが集まった『わんぱく相撲小千谷場所』の会場。女の子の参加者も年々増え、強豪選手も育ってきています。
3・4. 「おぢや自慢探検隊」の集大成として、深川JCとの共同事業「おぢや親善大使～Welcome　少年少女探検隊」を開催いたしました。郷土料理を教わる子どもたちの顔も真剣そのもの。
5. 新年会懇親会では、シニアクラブの方々と一緒に、2010年の抱負を語り合いました。

村田　2007年に起こった能登半島地震の際には、我々小千谷JCも現地へ向かいボランティアセンターの立ち上げに協力しました。ただ、被災した経験というよりも、「誰のためにやるのか」という信念さえあれば、どんなに過酷な状況だとしても必ず乗り越えられるものなんだということを痛感しました。

岡元　本当に多くの市民の方々から感謝の言葉をいただき、JCはよい人づくりができているなと感心したものです。

村田　今年、「教育」「まちづくり」を2大柱にした5ヵ年計画の長期ビジョンを掲げました。「いいまちづくり」をするためには、まずはそれを成し遂げる「いい人づくり」をしなければなりませんし、「どんなまちにしたいか」を考えたいのであれば、まちを知らなければなりません。1年目の今年は、保存会の方々などにご協力をいただいて、小千谷の歴史を学ぶところから始めています。

岡元　「人づくり」といえば、今年メンバー全員でどこかへ行くらしいじゃない。

村田　小田原・箱根で行なわれる全国大会の卒業式をゴールに、メンバー総勢70名が襷リレーをして、小千谷から約360kmの道のりを走ります。私は全行程を自転車で並走します。

岡元　本当にやるの!?

村田　はい！ すべてのメンバーが同じ気持ちで助け合って成し遂げる。そこから生まれた友情は我々のこれからの活動に最も必要なメンバー同士の深い絆となり、また次なるステージへと向かうための何かを感じ取ってもらえると信じています。

岡元　その気持ちは必ずメンバーに届くと思いますよ。5年後の小千谷JCにも期待しています。

村田　ありがとうございます。まずは、小千谷～小田原間を完走できるように、そしてメンバーの心を一つに勇気の翼をいっぱいに広げて頑張ります。

新潟県小千谷市

新潟県のほぼ中央に位置し、日本一の長さを誇る信濃川が中心を流れる緑豊かなまち。泳ぐ宝石とも言われる錦鯉や独特の風合いを持つ小千谷ちぢみ、三尺玉花火の発祥の地としても知られ、昭和60年には4尺玉の打ち上げにも成功し、ギネスブックに掲載された。つなぎに「ふのり」を使ったつるつると喉越しのよい『へぎそば』など、小千谷を代表する名産品も多い。面積155.12km²、総人口39,339人（小千谷市HPより、2010年8月末日現在）

はみだしコラム　テーマ「小田原・箱根うんちく」●「二宮尊徳（金治郎）は小田原出身」すでにご存知かと思いますが…、二宮尊徳は相模国栢山村（現在の小田原市栢山）出身で、「報徳思想」を唱え農村復興政策を指導しました。あくまで伝承ですが身長は180cm近くあったとか…。

はみだしコラム　テーマ「小田原・箱根うんちく」●「浮世絵に見る小田原・箱根」広重の東海道五十三次には「小田原 酒匂川」「箱根 湖水図」が、北斎の富嶽三十六景には「相州箱根湖水」が描かれています。広重も北斎も二宮尊徳と同時代の人。尊徳も見た風景が描かれているかも？